

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.5 2013年3月15日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ライフサイズ、1080p 対応ビデオ会議システムの新製品、新たな日本代表、日本市場での今後の展開など発表



LifeSize Icon シリーズ (ライフサイズ資料)

ライフサイズ・コミュニケーションズ (Logitech 社傘下) は、究極のシンプルさを追求し新たに開発された 1080p 対応ビデオ会議システムの新製品「LifeSize Icon(アイコン)シリーズ (LifeSize Icon 600)」を日本市場向けに正式に発表した。また、合わせて、新たなカンントリーマネージャの就任、日本市場の今後の展開の発表もあった。(取材:2月22日)



LifeSize Icon シリーズ ユーザーインターフェイス操作画面 -- リモコンで上下左右スクロールさせ必要なメニューを選択・決定 (ライフサイズ資料)

LifeSize Icon シリーズは、“スマートビデオ”というコンセプトを基に開発された。“Ultimate Simplicity”(究極のシンプルさ)、を徹底的に追求し、リモコンやユーザーインターフェ

イス画面など一新。1080p60fps 対応ながら低価格、コストパフォーマンス、シンプルなビデオ会議操作を実現した製品だ。

「Icon は、画面上のメニューアイコンを、シンプルなリモコンで選択していただく。マニュアルなしで誰でも操作できる。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

刷新したユーザーインターフェイス画面はわかりやすいアイコンを採用することでメニュー画面を視覚化し、操作をしやすくしている。



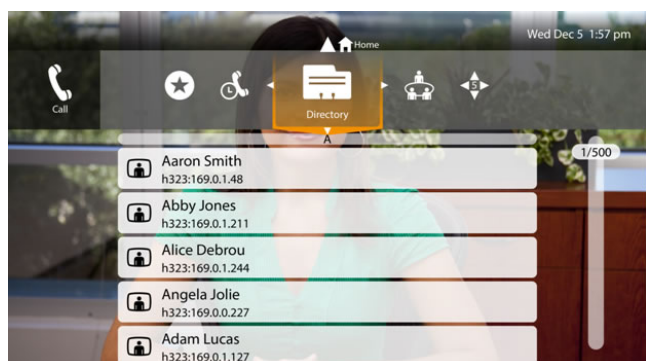
一方、リモコン(写真左)は、「選択ボタン」・「決定ボタン」そして「ミュートボタン」のみ。ダイヤルパッドなど、あとは全て省いた。十字キー操作と同じような感覚だ。画面上のメニューアイコンを追って、上下左右に選択ボタンでスクロールして、決定ボタンを押す。それだけの操作手順で全ての機能を利用できる。

「ビデオ会議用のリモコンでここまでシンプルになったものは他にはないのではないか。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

もちろん、タッチパネルを使いたいという要望も一方ではある。そこでライフサイズは、要望に応じて、同社から今春サポート予定の「LifeSize Phone (第2世代)」やカスタマイズなどでタッチパネル操作に対応している。

リモコン操作で一番多いのは、相手にコールすることだろう。Icon シリーズでは、IP アドレスを入力(画面上にキーボードのように表示される英数文字を選択ボタンで選ぶ方式)してコールすることもできるが、ディレクトリ(アドレス帳)から選択してコールする形が標準となっている。なお、ディレクトリへの登録は、システム管理者が「LifeSize UVC Manager」で一括管

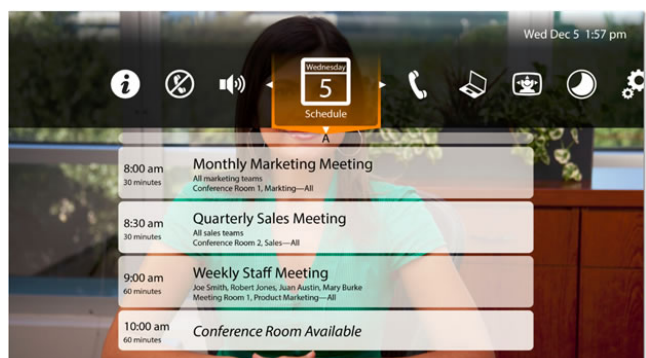
理できるため、ユーザ自身はなににもする必要はない。



ディレクトリ画面 リモコンで相手を選択・決定ボタンを押すと相手にコール（ライフサイズ資料）

LifeSize UVC Manager で、新たに相手先がディレクトリに登録されると、ネットワーク上に離れたところにある Icon シリーズの端末の画面に即座に反映される。あとはユーザが先述のリモコンで選んでシングルクリック（決定ボタン）をするだけだ。これは、Ultimate Simplicity が実現したシンプルさのひとつの例だろう。なお、LifeSize UVC Manager は、パソコンにインストールする会議予約・端末管理用ソフトウェア。Icon シリーズに無償で付属する。

また、LifeSize UVC Manager で会議予約を設定すると、先ほどと同じように Icon シリーズの端末側に即座に通知され、やはり同じように画面に一覧表示される形になる。そこで、ユーザは、リモコンのボタンで当該の会議名をシングルクリック（決定ボタン）で選ぶだけでその仮想会議室に接続することができる。会議開始後は、好みによりレイアウトを選択することもできる。



予定会議一覧-リモコンで予定会議を選択・決定すると予約された会議室へ接続（ライフサイズ 資料）



多画面分割レイアウト選択-リモコンで同じように選択・決定で好みのレイアウトに設定（ライフサイズ資料）

加えて、ストリーミング機能「LifeSize UVC Video Center」と組み合わせると、シングルクリックでストリーミングおよび録画を開始できる。録画は、ビデオとプレゼンテーションとも 1080p に対応している。

そのほか、LifeSize UVC Multipoint エンタープライズエディション版を使用すると、マイクロソフト社の「Microsoft Lync(2013/2010)」との相互運用も可能。通信プロトコルは、SIP および H.323。映像コーデックは、H.264 SVC/Microsoft RT Video に対応。多画面分割(CP)は、最大 25 まで表示可能となっている。

Icon シリーズの仕様としては、最大 1080p60fps に対応し、2 台までのディスプレイをサポート。通信プロトコルは、H.323 と SIP。QoS や暗号化機能、LDAP を利用した企業ディレクトリ統合などの特徴がある。ただし、内蔵 MCU には対応していない。

基本セットは、HD 対応コーデック本体とカメラ(光学 4 倍)およびマイク。北米では、3000 ドルを切る価格で販売されている。「同様な機能をもった他社製品は、価格において ICON シリーズよりも 2~4 倍の高い。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

周辺機器オプションとしては、「Camera 10x(光学 10 倍)」もしくは「Camera200(光学 4 倍)」、「Digital MicPod」、「第 2 世代 Phone(2013 年第 2 四半期予定)」を提供する。

ライフサイズには、すでに販売されている「LifeSize 220 シリーズ」がある。内蔵 MCU、ISDN や旧式のビデオ会議システム・電話回線との接続、アナログビデオ入力など豊富な入出

カインターフェイス(背面パネル)を要望の場合は、LifeSize 220 シリーズをお薦めすると同社では説明している。

今回の新製品発表に合わせて、新たに正式に就任した日本代表の紹介もあった。新たにライフサイズ・コミュニケーションズ 日本代表に就任したのは、櫻場 良幸 氏。櫻場氏は、ライフサイズ・コミュニケーションズの日本代表として、国内のすべての業務部門を管理、統括、指揮する。

30年以上にわたるIT業界での経験があり、日本IBM アライアンスセールス担当ディレクター、EMC ジャパン執行役員・パートナー事業本部長、サンマイクロシステムズ日本法人執行役員パートナー営業統括本部長などを歴任し、アライアンス・パートナー企業との関係構築やアライアンス先との協業によるビジネス拡大に大きな実績がある。青山学院大学理工学部物理学科卒業。

「ビデオ会議システムは今後電話の地位を取ってかわる、その時代がくると確信している。ビデオ会議システムの可能性に惹かれ、ライフサイズ・コミュニケーションズに入社することにした。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

ライフサイズ・コミュニケーションズは、2003年設立し、世界初の商用HDビデオ会議システムを2005年に発売。全世界にオフィスを展開し、100カ国に15,000の顧客をまた1,500社に上る代理店を擁す。2009年12月にはLogitech社(日本はロジクール)の傘下に入り、2011年日本市場でのライフサイズのシェアは第4位の地位を占めるという(フロスト&サリバン調査)。

日本での販売展開は、2005年以来、ディストリビュータとしての株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)を中心に展開し日本でのライフサイズのビジネスの拡大に大きく寄与してきた。

今後、日本市場でのさらなる拡大を目指すため、日立ハイテクノロジーズのほか、サンテレホン株式会社(東京都中央区)、シネックスインフォテック株式会社(東京都江東区)、株式会社メディアプラス(東京都千代田区)の4社のディストリビュータと協力していく考えだ。ライフサイズは技術支援を行いながら、ディストリビュータの主な役割は、日本での

販売代理店(リセラー)やシステムインテグレータ、ソリューションパートナーの開拓と支援(情報提供、販売促進、技術者向けコミュニティ)にある。

ライフサイズはメーカとしてラインナップしている製品群をこれらのパートナーを経由してユーザに販売するだけでなく、カスタマイズを含めたシステム構築や、業種に特化したソリューション(遠隔授業や医療など)の開発と提供を行い、新規マーケットを掘り起こしていく。

また、ユニファイドコミュニケーションの分野においては、「Microsoft Lync 2013」対応端末などマイクロソフトとのパートナーシップを今後も強化していくという。

最後に、今後のIconシリーズの展開については、まずはこの春に、第一弾として、第2世代LifeSize Phone、「自動プロビジョニング」、「コールエスカレーション」、マイクロソフトLync対応端末などの提供開始を予定しているとしている。

「UVCプラットフォームや現在販売してきたビデオ会議製品群、そして今回発表するICONシリーズをラインナップに加え、4社のディストリビュータと連携しながら、これから3年で売上の倍増を狙っていく。」(ライフサイズ・コミュニケーションズ)

NEC ネットズエスアイ、「Microsoft Lync」をプライベートクラウドでサービス提供開始

NEC ネットズエスアイ株式会社(東京都文京区)は、プライベートクラウドサービス「Lync プライベートクラウド」を4月より販売開始する。(2月19日)

NEC ネットズエスアイは、「Microsoft Exchange」や「SharePoint」等のプライベートクラウド構築から、Office365を活用したハイブリッドクラウドまでMicrosoftプラットフォームをさまざまなニーズに合わせて幅広く提供している。2012年12月に国内で2社目となるMicrosoft Lync 認定サポートパートナーとなり、Lync をラインナップに追加し、関連するさまざまなソリューションやサービスの拡充を進めている。この度、この一環として、Microsoft Lync Server 2013をベースとしたクラウドサービスを開始することになった。

この度提供開始するLync プライベートクラウドのサービス

内容は以下のとおり。

- (1) 基本機能: プレゼンス(連絡先情報)、インスタントメッセージング、1対1の音声・ビデオ会議、ファイル送信。(2) Web 会議(オプション): 3人以上の複数メンバーによるオンライン会議(音声・Web 会議・アプリケーション共有含む)。(3) エンタープライズボイス(オプション): 外線発信を含めたテレフォニー機能。スマートフォン、携帯電話を含む外線との音声会議。(4) カスタマイズサービス(オプション): テレフォニー環境との連携機能、マルチデバイス連携、管理機能、セキュリティ、認証基盤の連携機能。(5) トライアルサービス: 導入検討時の動作検証としてトライアルサービスの提供を予定している。

NEC ネットズエスアイでは、初年度となる 2013 年度に 30,000ID の販売を目標としている。

パイオニアソリューションズ、32 型タッチパネル搭載ディスカッションテーブルを新発売

パイオニアソリューションズ株式会社は、32 型タッチパネル搭載ディスカッションテーブル「WWS-DT301」を 3 月初旬に発売すると発表。(1 月 21 日)



32 型タッチパネル搭載ディスカッションテーブル(パイオニアソリューションズ 資料)

パイオニアソリューションズは、2011 年に、さまざまな端末に保存されているデジタルコンテンツの表示や書き込みなどを素早く行える 52 型タッチパネル搭載ディスカッションテーブルを発売し、多くの店舗やショールームで採用され

ている。

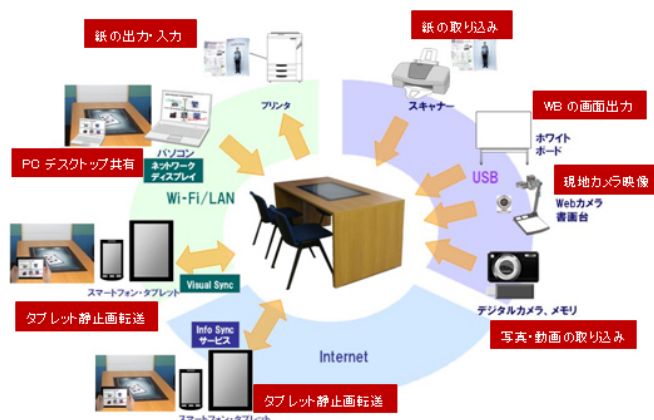


利用イメージ(パイオニアソリューションズ 資料)

今回発表されたフル HD 対応 32 型タッチパネル搭載ディスカッションテーブルは、現行モデルのプレゼンテーション機能に業務を効率化する新機能

を追加したモデル。

店舗などに設置しやすい 4 人掛けテーブルタイプであるため、旅行代理店やブライダルサロン、金融関係、不動産販売、携帯ショップ、カーディーラーなど接客窓口で効果的な説明やプレゼンテーションが行えるという。



さまざまな機器と連携することで効果的なプレゼンテーションが行える (パイオニアソリューションズ 資料)

WWS-DT301 は、動画や写真、説明資料などのデジタルコンテンツをタッチ操作で表示したり、また、本機に接続したサブディスプレイにカードを投げ込むようなタッチ操作で資料の表示も行えたりする。

また、PDF やパワーポイントなどの資料をページめくりで操作できる「Book 機能」や「クリッピング・貼付機能」を使って必

要な情報を簡単にまとめたり、「手書き帳票機能」(オプション、付属ソフト使用、CSV 形式出力・データベース連携可)を使い手書きで電子帳票に入力したりすることもできる。



WWS-DT301 システム構成 (パイオニアソリューションズ資料)

一方、ノートパソコンやスマートフォン、タブレット端末などと連携(「メディアハブ機能」)した利用や、「CCS-Prime 遠隔会議連携」などの機能も提供されており、プレゼンテーションを効率的に行える豊富な機能を搭載している。

外形寸法は、1,400mm x 720mm x 720mm。約 90kg。価格は、オープン価格。

NTT アドバンステクノロジー、RADVISION の VoLTE 開発向け総合試験ツール「ProLab」新バージョン販売開始

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、RADVISION(ラドビジョン、アバイア社ビデオ事業部門)が開発した総合試験ツール最新版「ProLab 7.0」を2月25日より日本国内販売を開始と発表。(2月21日)

ProLab 7.0 は、VoLTE 機能の開発などを支援するシグナリング・音声通話・映像コミュニケーションの総合試験ツール。汎用 PC 上で動作するソフトウェア。

世界では、VoLTE 対応への実現をめざすチップセットベンダや移動機開発ベンダ、LTE サービスプロバイダなどに採用されているという。



ProLab 概要 (NTT アドバンステクノロジー 資料)

ProLab 7.0 は、以下のような開発支援を行う。(1) 音声通話をはじめ着信転送、会議通話などの付加サービス。(2) サービス提供事業者の IP コアネットワーク(IMS コアネットワーク)上で提供するテキストメッセージサービス(SMS)など VoLTE 機能。(3) インスタントメッセージングやプレゼンスなどの RCS 機能。

中でも、きめ細かな設定が可能な IMS コアネットワークのシミュレーション機能が多くの支持を得ているという。

開発元の RADVISION は、IMTC など業界の標準化・相互接続イベントでも重要な役割を担っており、それをもとに ProLab には豊富な経験と高い技術が結集され、多くのバリエーションのテストシナリオを具備している。

たとえば、以下のようなテストケースがある。(1) IMTC の IMS アクティビティグループの相互接続テストケース。(2) VoLTE や RCS 仕様に準拠した端末の開発を支援するテストケース。

今後、通信事業者等で構成される国際機関 Global Certification Forum にて VoLTE のテストケースが定義され次第 ProLab でもサポートを計画している。

NTT アドバンステクノロジーの対応窓口は、グローバルプロダクツ事業本部 メディアコミュニケーションプロダクツ ビジネスユニット RADVISION 担当となっている。

日本アバイア、モバイルコラボレーションの導入を容易にする「Avaya Aura Suite Licensing」を発表

日本アバイア株式会社(東京都港区)は、企業向けコラボレーションソリューション「Avaya Aura Suite Licensing(アバイア オーラ スイート ライセンシング)」を3月4日から提供開始すると発表。(2月8日)

Avaya Aura Suite Licensing は、「Essential Suite(エッセンシャルスイート)」、「Mobility Suite(モビリティスイート)」、「Collaboration Suite(コラボレーションスイート)」の3つのスイートで構成される。なお、それぞれの違いについては、下の表を参照。

スイート	用途 価格	含まれるライセンス
Essential Suite	音声コラボレーションを実現(SIP 電話機、ソフトウェア UC インテグレーションに対応) US\$225	<ul style="list-style-type: none"> ・ IP-PBX 「Avaya Aura Communication Manager」 ・ SIP サーバ 「Avaya Aura Session Manager」 ・ プレゼンスサーバ 「Avaya Aura Presence」 ・ 簡易ボイスメール 「Avaya CM Messaging」 ・ コラボレーションクライアント 「Avaya Flare Experience for Windows」 ・ ソフトフォン 「Avaya one-X Communicator」 ・ CEBP ミドルウェア「Avaya ACE」 (Avaya Agile Collaboration Environment) ・ Microsoft Lync との連携を実現する 「Avaya Client Applications」
Mobility Suite	セキュアな BYOD を支援 US\$325	Essential Suite に含まれるライセンスに加えて下記ライセンス。 <ul style="list-style-type: none"> ・ セッションボーダーコントローラ 「Avaya SBC for Enterprise」 ・ コラボレーションクライアント 「Avaya Flare Experience for iPad」 ・ スマートフォン用ソフトウェア 「Avaya one-X Mobile for SIP/iOS/CES」 ・ メッセージングサーバ 「Avaya Aura Messaging」 ・ ロールベースのユーザ認証ソリューション 「Avaya Identity Engines」(近日提供予定)
Collaboration Suite	音声コラボレーション、セキュアな BYOD 支援に加えてビデオ・Web コラボレーションを実現 US\$525	Essential Suite および Mobility Suite に含まれるライセンスに加えて下記ライセンス。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声・Web・ビデオ会議サーバ 「Avaya Aura Conferencing 7」 ・ RADVISION ビデオ会議ソリューション 「Scopia® Desktop / Mobile」

(日本アバヤ資料をベースにCNAレポート・ジャパンで作成)

Avaya Aura Suite Licensing の特長としては以下の通り。

(1) アバヤの従来の提供方法と比較して価格が最大40%低減される。(2) 音声コラボレーション、モビリティ(セキュアな BYOD)、ビデオ/Web 会議といったユーザのニーズに応じて必要な製品が一括で購入できる。(3) ライセンス

を組織単位ではなくユーザ単位で選択できる。

これまでは、企業においては、コミュニケーション基盤の拡張性、セキュリティ、導入の手間とコストといった課題からスマートデバイスをベースとするコラボレーションやビデオ会議等の導入は限定的だった。そこで、今回、Avaya Aura Suite Licensing を提供開始することで、企業がそれぞれのユーザのロール(職責)や利用目的に合ったコラボレーション機能を以前よりも容易に導入できるようになった。

また合わせて、セキュアな BYOD を支援する新セキュリティソリューション「Avaya SBC for Enterprise(アバヤ SBC フォー エンタープライズ)」や、ロールベースのユーザ認証ソリューション「Avaya Identity Engines(アバヤ アイデンティティ エンジン)」も発表している。

製品・サービス動向-海外

ラドビジョン、1080p/60fps、H.264 HP/H.264 SVC 対応の Scopia Elite シリーズ MCU の新製品を発表

ラドビジョン(アバヤのビデオ事業部門)は、「Scopia Elite シリーズ」のラインナップに新たに追加されたフル HD 対応多地点接続装置の新製品「Scopia Elite 6000 シリーズ MCU」を発表した。(米国:1月29日)

Scopia Elite 6000 シリーズ MCU は、ハードウェア MCU とソフトウェア MCU のそれぞれよい面を組合せ MCU としてのパフォーマンスを向上させている点に特長がある。また、従来のハードウェア MCU 装置に比較して、ポート単価は50%低コスト化を実現し、電力消費量についても75%カットしている。

映像符号化については、1080p/60fps、H.264 HP/H.264 SVC に対応。1U タイプサーバ単体で40ポートまで搭載。

またバーチャル MCU 機能(仮想化)や「Scopia TIP Gateway」、「Google マップ統合」、「マルチテナント」、「コンシアーजサービス」などの機能にも対応している。さらに、スケーラビリティの面では、40万ユーザまでサポートしており、大企業はもとより、サービスプロバイダの要望にも十分対応できるとしている。

一方、操作環境についてはオンスクリーン操作となってお

り、どの端末からでも、また、「Scopia Control iPad アプリ」からでも操作が可能だ。

ビジネス動向-海外

Blue Jeans Network 社、Lync クライアント向けの双方向 HD デスクトップ共有機能に対応

米 Blue Jeans Network 社は、同社のクラウド型テレビ会議サービスにおいて、Lync クライアント向けの双方向 HD デスクトップ共有機能に対応したと発表。この機能は標準機能として同社サービスを利用するユーザに提供される。(2月20日)

これまで Lync クライアントは、テレビ会議端末などノン Lync クライアントから送信されてくるコンテンツ画面は受信できたが、Lync クライアント側からコンテンツ共有を行うことができなかった。しかし、このたび、Lync クライアントからも双方向で HD コンテンツ共有が行えるようになった。

Arkadin 社の電話会議サービス、IBM Sametime とシステム統合

Arkadin 社は、同社の電話会議サービスが IBM Sametime とシステム統合することで合意したと発表。(1月28日)

Arkadin 社の電話会議サービス「ArkadinAnytime(アルカディンエニータイム)」の利用契約を行っている Sametime ユーザは、ワンクリックで IBM Sametime のインターフェイスから直接、電話会議に参加できるようになる。また、ArkadinAnytime は、IBM Notes とフルインテグレーションを提供する。

日本法人は、アルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)に本社。また大阪には、関西営業所(大阪市中央区)をもつ。

セミナー・展示会情報

<国内>

パナソニックのWeb会議「音」のプロフェッショナルが語る3つの改善ポイント」セミナー

日時:3月15日(金) 14:00~16:00(受付:13:30)
会場:パナソニック ソリューションテクノロジー 本社(東京都港区)
主催:パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
詳細・申込:<http://panasonic.co.jp/snc/pstc/event/20130315/index.html>
*パナソニック ソリューションテクノロジーとヤマハによるセミナー。

【"見える"カレッジオンライン】

Web会議サービスの活用メリットとは
~スマートフォン・タブレットで使えるV-CUBEサービス~
日時:3月15日(金)14:00~15:00(接続開始:13:50)
会場:オンライン配信
主催:株式会社ブイキューブ
詳細・申込:<https://vcube.smtg.jp/public/seminar/view/43>

【"見える"カレッジオンライン】

Web会議サービスの活用メリットとは
~研修・教育のオンライン化のすすめ~
日時:3月21日(木)14:00~15:00(接続開始:13:50)
会場:オンライン配信
主催:株式会社ブイキューブ
詳細・申込:<https://vcube.smtg.jp/public/seminar/view/44>

[ポリコム主催・体験会] Polycom Day

~最新ソリューションを定期的にご紹介~
日時:3月から12月まで月1回開催
15:30~16:30(開場:15:15)
*但し、3月は、3月1日と22日の2回。4月以降は詳細確認。
会場:ポリコムジャパン セミナールーム(東京都千代田区)
主催:ポリコムジャパン株式会社
詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events/index.html>

ユニファイド コミュニケーション セミナー2013 継続的成長に欠かせないコミュニケーション戦略を支える テレビ会議、Web会議、電話会議とは

日時:4月12日(金)13:30~16:30(受付開始 13:00)
会場:ベルサール九段(東京都千代田区)
主催:ソフトバンク クリエイティブ株式会社
協賛:株式会社ネットワークバリューコンポネンツ
パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社 他
詳細・申込:<http://www.sbbt.jp/eventinfo/15794/>
*基調講演は IDC Japan ソフトウェア&セキュリティ グループマネージャ 眞鍋 敬 氏

国内イベント:<http://cna.jp/cna/event-j.html>

(次ページへ続く)

< 海外 >

EnterpriseConnect 2013(旧 VoiceCon)

日時:3月18日～3月21日

会場:アメリカ フロリダ州オーランド Gaylord Palms Resort & Convention Center

主催:United Business Media company

詳細・申込:<http://www.enterpriseconnect.com/orlando/>

*会議システムメーカーで出展しているところもある。

バイキューブ企業セミナー アジアのコミュニケーションの専用回線 Global Link 活用したウェブ会議

日時:3月14日(木)、3月21日(木)、3月28日(木)

14:00-15:30

会場:V-CUBE Global Services オフィス(シンガポール)

主催:V-CUBE Global Services オフィス

詳細・申込:<http://www.asiax.biz/event/2013/03/130312.html>

*ASIAX イベント情報掲載。

海外イベント:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>**定期レポート 電子ブック版**

CNAレポート・ジャパンでは、2003年から定期レポートをPDF版で発行しておりますが、2012年、カタログスクウェア株式会社に、定期レポートの電子ブック版を製作していただきました。

これまで定期レポート(PDF版:2003年から)については、1号毎にファイルを開いて読む形でした。それに対して、電子ブック版では、複数の号が1冊にまとめられ雑誌のページをめくるように定期レポートが閲覧できるようになりました。また、記事内の検索もしやすくなりました。PCのほか、スマートフォン、タブレットから閲覧できます。

この電子ブック版は、これまでの1号単位のPDF版と並行して提供します。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2012年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

2013年

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/**カタログスクウェア株式会社**<http://www.catalog-square.co.jp>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお願いたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

Twitter、Facebook、dtc-forum

ツイッターとフェイスブック、dtc-forumを通して遠隔会議関連の情報をシェアしています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

>Twitter

-日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>-英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

>Facebook

-「テレビ会議・Web会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

-「橋本啓介」個人のページ

<https://www.facebook.com/keishashimoto>**編集後記**

今号もお読みいただきましてありがとうございます。

次号もよろしくお願致します。 橋本啓介